

第4・5・6学年算数科学習指導案

1. 題材 「かいものいこう」（金銭処理）

2. 指導観

- 本学級は、4年生1名、5年生3名、6年生4名の計8名で構成されている。子どもたちは、これまでの学習を通して、10や100のまとまりをつくって個数を数えて数タイルで表す、数を数直線上に位置付けて大きさを比べる、たし算、ひき算、かけ算、わり算などの計算をする、簡単な小数の計算をする、といった数の基礎的な力を身に付けてきている。日常生活の場面では、人数を数えて必要な品物の個数を分配したり、調理材料の買い物で金額を数えたりする経験を通して、実際的な数にかかわってきている。

子どもたちの計数における学習段階は、具体物操作を通して、5や10をまとめて100程度の数を数えている段階から、100をまとめて1000までの数を数えている段階、1000以上の大きな数をとらえている段階と個人差が大きい。また、金銭処理の学習段階は、どの子どもも金種の違いや名称はとらえているが、同種の硬貨を数える段階から、異種の硬貨を組み合わせで数える段階と、等価関係の理解についても学習段階が異なる。（個別の実態は別途資料参照）

- 本題材は、「かいものいこう」の活動を通して、個に応じた数範囲や数え方でお金を数えて品物を買う活動に繰り返し取り組み、金銭処理の力を身に付けていくものである。本題材には、①身近なコンビニエンスストアへの買い物という実際の生活場面を教材化したことで、子どもたちの主体的な活動展開が期待できること、②個に応じた学習内容を設定できる様々な金額の品物があること、③買い物（実際の買い物に向けた練習）の過程に、計数箱や計数シートを使って繰り返し硬貨を数えて具体的思考を連続させ、次第に硬貨のみを数える念頭思考へ発展させていくという、思考が連続、発展する操作活動の仕組みが位置付いていること、などの価値がある。

金銭処理の内容は、通常算数科学習においては指導外の内容であるが、実生活に必要な実務領域として、本学級の指導内容として設定している。計数をはじめ、これまでに身に付けた様々な数の力を発揮して取り組む本題材は、お金の支払いという生活技能の育成にとどまらず、子どもたちに、既習の知識や技能を駆使して課題解決に取り組む態度を培う上で価値があると考えられる。

- 本題材の指導にあたっては、子どもたち自らが「お金を数えて買い物をしよう」という意識のもとに、金銭処理の操作活動に繰り返し目的をもって取り組んでいけるようにする。

そのために、である段階では、コンビニエンスストアへの買い物と練習についての計画表を見合い、買い物の練習の仕方（基本的な金銭処理の操作）を経験し、学習への興味・関心や目的意識、見通しをもてるようにしていく。

つくる段階では、①品物を取り出して、値段（金額）を読み取る、②計数箱や計数シートを使って金額を数えて取り出す、③お金を支払って品物を買う、正誤を確かめる、④硬貨の絵図と言葉で買い物したことをノートにまとめる、という一連の操作活動に、個に応じた金額や等価関係の設定で取り組んでいけるようにする。①から④までの操作活動を繰り返すことで、金銭処理の考え方を身に付けていき、②の金額を数える活動では、異種の硬貨の等価関係がわかる計数箱・計数シートの使用を徐々に減らして操作を簡略化していく。このように、基本的な操作活動を通して具体的思考を連続させながら、意図的に操作を簡略化していくことで、操作によって生じた具体的思考が念頭思考へと発展していくようにする。

ふかめる段階では、実際に近くのスーパーに買い物に出かけて品物の購入を体験し、学習した金銭処理の力が生活に役だったという算数のよさを感じるとともに、学習を達成した満足感を味わえるようにしていく。

3. 題材の目標

- 500円までの金額を数えたり（A・B・C児）、1000円までの金額を数えたり（D・E・F児）、1000円までの金額を数えてお釣りがもらえるように取り出したり（G・H児）することができる。
- 金銭を正しく処理することで買い物ができる数の有用さや、等価関係の考え方を扱うことの算数的な処理のよさを感じることができる。

4. 題材計画（全8時間）

過程	目標	主な学習活動と内容	思考が連続、発展している子どもの姿
であう 1	①買い物への興味・関心や、目的意識、操作方法についての見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物計画表を見て、コンビニエンスストアに買い物に行くことや、買い物に必要なお金の支払いの練習について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動への興味・関心、見通しをもつこと ○ 試しの買い物練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の操作の方法を確認すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「買い物に行くためにお金の支払いを練習しよう」という様子が見られ、買い物の仕方（金銭処理の操作）を考えている。
つくる 6	<p>③小さい数範囲で、個に応じた操作活動に繰り返し取り組み、金額の教え方や等価関係をとらえる。</p> <p>③大きい数範囲で、個に応じた操作活動に繰り返し取り組み、金額の教え方や等価関係をとらえる。 (本時 1/3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お家で使うものの買い物練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・小さい数の数範囲や難易度の低い内容で個に応じた学習内容に取り組むこと [A児・B児・C児] <ul style="list-style-type: none"> ・100円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円硬貨を組み合わせてお金を支払う。(5円・10円の等価関係) [D児・E児・F児] <ul style="list-style-type: none"> ・500円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円、50円、100円硬貨を組み合わせてお金を支払う。(5円・10円・50円の等価関係) [G児・H児] <ul style="list-style-type: none"> ・500円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円、50円、100円硬貨を組み合わせて、お釣りがもらえるようにお金を支払う。(5円・10円・50円の等価関係) ○ 食べるものの買い物練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きい数の数範囲や難易度の高い内容で個に応じた学習内容に取り組むこと [A児・B児・C児] <ul style="list-style-type: none"> ・500円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円、50円、100円硬貨を組み合わせてお金を支払う。(5円・10円・50円の等価関係) [D児・E児・F児] <ul style="list-style-type: none"> ・1000円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円、50円、100円硬貨を組み合わせてお金を支払う。(5円・10円・50円・100円の等価関係) [G児・H児] <ul style="list-style-type: none"> ・1000円までの金額を数える。 ・1円、5円、10円、50円、100円、500円硬貨を組み合わせて、お釣りがもらえるようにお金を支払う。(5円・10円・50円・100円・500円の等価関係) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 品物の値段を見て金額をとらえている。 ○ 計数箱や計数シートを使って模擬硬貨を数えている。 ○ 数えたお金の正誤を買い物の場で確かめ、間違った場合は操作をやり直している。 ○ 硬貨の絵図と言葉で数えた金額をノートにまとめている。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計数箱や計数シートを使って模擬硬貨を数えている。 ○ 計数箱を使わずに、計数シートのみで模擬硬貨を数えている。 ○ 計数箱も計数シートも使わずに、模擬硬貨を数えている。 ○ 数えたお金の正誤を買い物の場で確かめ、間違った場合は操作をやり直している。 ○ 硬貨の絵図と言葉で数えた金額をノートにまとめている。
ふかめる 1	①学習したことを生かして、実際の買い物をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際のお金を用いてコンビニエンスストアで買い物をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習を達成した満足感や算数で処理することのよさを味わうこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習して身に付いた金額の教え方で、お金を取り出して買い物をしている。

5. 本時

5 / 8

6. 本時の目標

A 児	○ 300円までの金額を数えることができる。
B 児	○ 5円・10円・50円の等価関係を使って、1円、5円、10円、100円硬貨を組み合わせ
C 児	せてお金を支払うことができる。
D 児	○ 700円までの金額を数えることができる。
E 児	○ 5円・10円・50円・100円の等価関係を使って、1円、5円、10円、50円、100円硬
F 児	貨を組み合わせ
G 児	せてお金を支払うことができる。
H 児	○ 700円までの金額を数えることができる。
	○ 5円・10円・50円・100円・500円の等価関係を使って、1円、5円、10円、50円、100円、500円硬貨を組み合わせ
	せて、お釣りがもらえるようにお金を支払うことができる。

